

## 人民元国際化と円建て貿易決済の促進

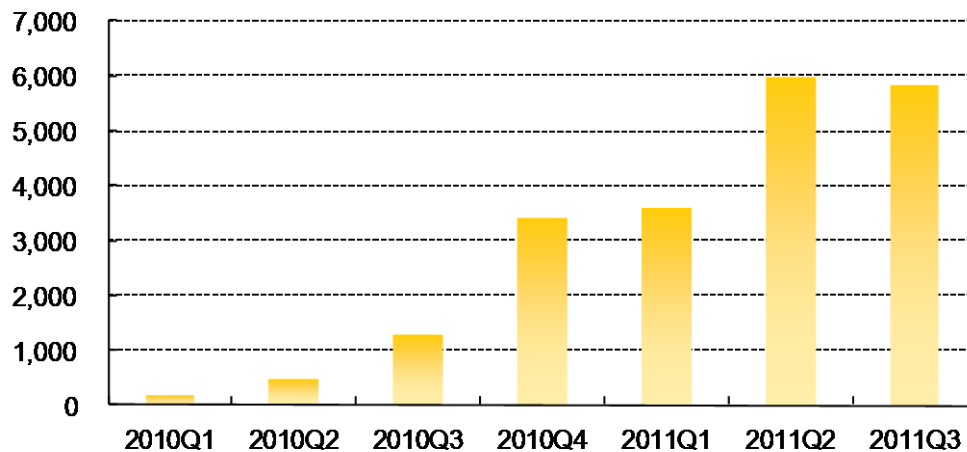
開発経済調査部 上席研究員 植田 賢司  
[ueda@iima.or.jp](mailto:ueda@iima.or.jp)

### 着実な進展を見せる人民元国際化

人民元国際化の動きが加速している。2011年8月、中国人民銀行は5つの部・委員会と共同で「クロスボーダー貿易人民元決済地域に関する通知」を公布し、クロスボーダー貿易人民元決済の国内における適用地域を全国に拡大した。また、10月には商務部が「クロスボーダー人民元直接投資に関する関連問題の通知」を、中国人民銀行が「外商直接投資人民元決済業務管理弁法」を公布し、海外の投資者が人民元で中国に投資することを認めた。

中国人民銀行によれば、クロスボーダー貿易人民元決済の2011年第1四半期から第3四半期までの累計額は1兆5,410億元となっている(図1)。クロスボーダー貿易人民元決済の普及状況について、中国人民銀行が公表する「中国貨幣政策執行報告」によれば、2011年第1四半期には貿易総額の7%を超えている。また、香港においては対中貿易(再輸出を含む)に占める人民元決済の比率は2010年第4四半期に37.6%に達しているとの専門家の試算もある<sup>1</sup>。

図1 クロスボーダー貿易人民元決済額の推移 (単位: 億元)



(出典) 中国人民銀行「2011年第3四半期中国貨幣政策執行報告」

人民元国際化の推進により香港の人民元オフショア市場も活況を呈している。人民元

<sup>1</sup> 村瀬哲司『人民元市場の内外分離政策と「管理された」国際化』国際通貨研究所 国際経済金融論考 2011年第2号 p.2

預金残高が急速に伸びるとともに、各種人民元建ての金融商品が組成・販売され、香港企業や非居住者による人民元建て債券（点心債、Dim Sum Bond）の発行も相次いでいる。また、シンガポール政府も外為市場の競争力強化の一環として人民元オフショア市場の育成に向けた準備を行っているほか、ロンドンの金融街シティも人民元オフショア市場の誘致に名乗りを上げている。日本においても一部の銀行において人民元口座の開設が可能となっている。

## 中国本土における外為市場の整備

一方、人民元国際化とも関連する動きとして、中国本土（オンショア）の外為市場の整備が進み、銀行間外為市場において人民元と取引可能な通貨の種類が積極的に進められている。上海にある中国外貨取引センター（CFETS）では銀行間為替市場において人民元の取引相手となる通貨は、当初、米ドル、ユーロ、英ポンド、日本円、香港ドルの5通貨に限定されていたが、対象は新興市場通貨にも広がっており、2010年8月にはマレーシアのリンギット、2010年11月にはロシアのルーブル、さらに、2011年11月28日からは、人民元の豪ドル、カナダドルに対する取引も開始されるなど広がりが加速している。

このうち対リンギット、ルーブル取引は、対ユーロ、日本円、英ポンド、香港ドルなどの取引と異なり、CFETSが公表する中間値は米ドルを介したクロスレートを使っていない。また、市場における実際の取引レートも人民元とリンギット及び人民元とルーブルの需給状況によって、銀行がクロスレートを介在させず直接値決めをしている。

また、対ユーロ、日本円、英ポンド、香港ドルなどの米ドル以外の主要通貨についても、取引システムの整備が進められ、2009年6月には銀行間の相対取引（OTC取引、中国語では「詢価取引」）について、CFETSが同一通貨取引をネット・集中決済するシステムを導入した<sup>2</sup>。現状の外為市場では、人民元と米ドル以外の通貨との取引量は少なく、適時必要な額を手当てするのは困難な状況であるため、ほとんどの取引が米ドルを介在させている。しかし、上記のネット・集中決済システムの導入により、米ドル以外の通貨についても決済の効率性が向上し、対米ドルを介在させた時に抱えざるをえなかった上海－ニューヨーク間の時差リスクを軽減する効果が期待できるようになった。

## 次善の策としての貿易決済通貨の多様化（非米ドル化）

中国政府は、対外取引における使用通貨を米ドル集中から多様化すべく、様々な場で二国間貿易における自国通貨建て決済促進の構想を打ち出している。2011年4月に中国・海南島で開催されたBRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）首脳会議に合わせて締結された「BRICSの政府系銀行協力メカニズムにおける金融協力覚書」の中で、BRICS5カ国が自国通貨建ての貿易決済の規模を段階的に拡大し、貿易や投資の利便性を高めると述べている。また、2011年5月にベトナムのハノイで開催された第14回ASEAN+3（日中韓）財務大臣会議後に発表された共同ステートメントによると、日中韓3カ国は自国通貨を使用して互いに輸出入貿易の決済を行うことについて、実行可能性の研究を進めることで合意している。

中国は、今般の世界金融危機以降、長期的に見た米ドルの信認が揺らぐ中で、米ドルへの過度な依存から脱却する方針を示している。一方で、人民元国際化は着実な進展を

<sup>2</sup> 露口洋介「中国における日本円の決済について」信金中央金庫海外業務支援センターレポートVol.5

見せているものの、まだ多くの課題が残されている。為替・資本規制の緩和については、中国当局にはこれを拙速に進める考えはなく、人民元の使用が直ちに拡大すると考えるのには無理がある。また、人民元相場の弾力化がゆっくりとしたペースで進み、今後の人民元相場において人民元先高の方向性がかなりはっきりしている現状においては、貿易決済における人民元の使用により損失を被るのが当事者のいずれ側となるか明らか（中国から輸出の場合は外国側が、中国が輸入する場合は中国側が不利）であることから、互いに折り合いがつかず、結果的に人民元の使用拡大が思うように進まないのではないかという見方もある<sup>3</sup>。対外取引の大部分を人民元で行うようになるまでにはまだ相当の時間を要することから、中国政府は次善の策として、使用通貨の多様化を図ろうとしていると考えられる。

## 二国間貿易における円使用拡大の可能性

人民元国際化の進展については、日中二国間取引において人民元の使用が拡大し、円の国際通貨としての地位を危うくしかねないとの考えもある。しかし、二国間貿易における地場通貨使用の促進という中国当局の主張を素直に読めば、人民元の使用に限らず、日本円の使用拡大もその対象に含んでおり、中国側としても寧ろ円の使用拡大は望むところだとも解釈できる。中国の決済システム事情に詳しい信金中央金庫・露口洋介氏は、中国人民銀行幹部へのヒアリングなどに基づき、上述のCFETSにおける一連の外為決済システムの整備は中国として米ドルへの過度の依存から脱却し、利用通貨の多様化を図ることを念頭に置いて進められた措置であるとして、日中間の二国間貿易決済における日本円の使用拡大を提起している<sup>4</sup>。

2010年の貿易統計によれば、日本の全輸出入に占める中国向け輸出入のシェアは20.7%で、米国の12.7%を上回る最大の貿易相手国となっており、今後も中国との貿易は伸びてゆくことが期待される。日中二国間の貿易取引において日本円による決済が拡大すれば、貿易取引における日本企業の為替リスクが減少するとともに、中国本土の外為市場において円人民元為替取引の厚みが増し、日中双方に対して利益をもたらすことになるろう。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2011 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-2

電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <http://www.iima.or.jp>

<sup>3</sup> 植田賢司「人民元国際化の課題～鍵を握る人民元相場の弾力化～」国際通貨研究所 Newsletter 2010年 第29号

<sup>4</sup> 露口洋介「中国における日本円の決済について」信金中央金庫海外業務支援センターレポート Vol. 5